



男の料理教室

男性いざ、厨房へ！

真壁伝承館調理室で公民館講座の一つとして「男性のための料理教室」(仁平保学級長)が実施され、男性会員11人が「肉ジャガ」作り挑戦しました。
3年前から行われているこの講座には、退職を迎えた方など、料理に興味がある男性が参加し、毎年期間中には10回ほど実施されています。当日は、講師の先生からレシピの説明を受けてから調理開始。参加者の皆さんは、包丁の扱い方や調理のコツを伝授されながら、男同士和気あいあい肉ジャガを完成させ「今度は、家で作って家族に食べさせたい。」などと話していました。

真園会から福祉施設に

新鮮夏野菜をプレゼント

真壁地区内の青年農家13人で構成される「真壁真園会」(藤田健彦会長)から、真壁授産学園・真壁厚生学園・紫峰更生園に、採れたての小玉スイカやキュウリ・トマトなどの新鮮野菜が贈られました。
これは、同会が毎年実施しているもので、今年で17回目。丹精込めて作られたフレッシュな初夏の味覚に、園生たちも大喜びでした。
藤田会長は「園生の方たちに喜んでいただけて大変嬉しく思っています。これからも、この活動を続けていきたい。」と話していました。



真園会の皆さんは毎年真壁町の福祉施設に夏野菜をプレゼントしています。



ふれあい生きいきサロン

大運動会を開催

岩瀬総合体育館(ラスカ)で、「第9回ふれあい生きいきサロン大運動会」が開催され、生きいきサロン利用者とそのボランティアの方々が、楽しいひとときを過ごしました。
「生きいきサロン」は、歌や体操などのレクリエーションを通じて高齢者の仲間づくりや要介護の予防などを目的に、月1、2回、地域の集落センターなどで開催されているもので、当日は、総勢260人が参加。紅白玉入れなど5種目の個人・団体競技が行われ、参加した高齢者の皆さんは心地よい汗を流しました。

チビツ子ふれあい教室

アユのつかみ取り体験

真壁コミュニティスクール紫尾地区実行委員会(青木嘉文委員長)主催の「チビツ子ふれあい教室」が、紫尾小学校の敷地内を流れる『なかよし川』で開催されました。
これは、新たな体験を通じた子供たちの思い出づくりを目的に行われたもので、当日参加した真壁町内の小学校児童とその保護者230人は、なかよし川に放流された、約300匹のアユのつかみ取りやスイカ割りをするなど、川遊びに夢中になりました。
子供たちから、アユを捕まえるたびに歓声が上がったり、また、スイカ割りなども行われ、楽しい夏の日の思い出になりました。



参加児童たちは服を濡らしながらもアユのつかみ取りに夢中になりました。

常陸大和ライオンズクラブが

大和中で薬物乱用防止講習会

常陸大和ライオンズクラブ(藤田行雄会長)主催の「薬物乱用防止講習会」が大和中体育館で行われました。
これは、同クラブの青少年健全育成事業の一環として行われたもので、同クラブ会員でもある講師の延島クリニックの延島茂人先生からの、世の中で蔓延している覚せい剤や危険な薬物を摂取する危険性についての講演に、参加した生徒や保護者は真剣に耳を傾けていました。
「身近に危険な薬物が多くあることに驚きました。誘われても断る勇氣を持ちたい。」と、参加した生徒は話していました。



延島先生からの「薬物の危険性について」の講話を真剣に聴き入る大和中生

学童野球大会で

樺穂ブルーージェイズ2連覇

真壁運動場をメイン会場に「第10回樺穂ブルーージェイズ学童野球大会」が開催され、主催チームの樺穂ブルーージェイズが、昨年が続いて見事2連覇を達成しました。
本大会は、野球スポーツ少年団の友好と親睦を図るため開催され、同チームと交流がある市内チームと近隣地域から31チームが参加。日頃から厳しい練習を重ねてきた子供たちは、元気いっぱいプレーをしました。決勝戦では、熱戦の末2-2の同点となり、大会特別ルールの延長戦を行い、7-3で樺穂ブルーージェイズが勝利しました。



昨年に続いて見事2連覇を達成した樺穂ブルーージェイズスポーツ少年団の皆さん

朗読コンサート

「みずすが見た夢」

大國・雨引両小学校で、青少年育成桜川市民会議大和支部(島田勝典支部長)主催による朗読コンサートが行われました。北海道から沖縄まで、全国各地の小学校などで朗読コンサートをやっている、小口ゆいさん・沙亜さん親子が、小学校の教科書にも登場する童謡詩人「金子みすゞ」の詩を、ことばとピアノで表現しました。
このコンサートは、同支部が日本語の美しさや言葉をとおして心の豊かさを育ててもらおうと開催したもので、朗読コンサートを聴いた生徒は、「唄になっていて、楽しく聴けました」と話していました。



金子みすゞの詩「こたまでしようか」を朗読する小口ゆいさん(写真下)とピアノ演奏をする沙亜さん(写真上)

伝統工芸士が

真壁氏墓碑群を修復

真壁石燈籠伝統工芸士会(小原正会長)の皆さん13人(会員23人)が、東日本大震災で大きな被害を受けた、県指定文化財史跡の「真壁氏累代の墓碑群」(真壁町山尾地区遍照院境内)の修復作業を実施しました。
真壁氏は、平安時代末から約430年にわたり真壁地方を治めていた一族で、同院内には真壁氏の墓・五輪塔が40基あり、震災で、大半が倒れたり壊れたりした状態で終了しました。今後、貴重な史跡を後世に残していくためにも我々ができることは協力していきたい。」と話していました。



真壁石燈籠伝統工芸士会の皆さんは、五輪塔の修復作業の大半を人力で行いました。